



保育の質をデータと学びで前へ進める

保育クオリティラボ「育ちのミカタ」

イコールプラス株式会社

堀 雄太朗





Let's go!

memories

Smile

保育園

Growing Up Healthy



保育は尊い仕事。でも、脳が限界。

実労働者数は明らかに不足

指標	現状	
保育士資格登録者数	<u>約167万人</u>	資格保有者
現場の従事者数	<u>約64.5万人</u>	実際の現場
潜在保育士（未従事者）	約102.8万人	転職、引退、子育て等
求人倍率	<u>約3倍超</u>	欠員が多いことを表している

実労働者数は明らかに不足しており、
政府・自治体の政策改善が進んでいるものの、
長期的な需給バランスの改善には時間がかかる。

保育士不足への課題

■保育士不足の本当の原因は人手ではなく、 「判断」と「感情労働」の**過負荷**



- ・子ども理解は高度な専門判断
- ・記録、会議、保護者対応
- ・感情巻き込み、自己消耗

保育士不足への課題



ベテランが辞める = 園の知能が消える



ニューロ保育 構想

NEURO-HOIKU

AI×保育士 “第二の頭脳” 構築事業



保育を「ひと依存」から「知能のインフラ」へ

人×AI

ライブ観察AI



太郎くんがおもちゃの取り合いで..
...フォローが必要です。



※園内リアルタイム解析

- ・カメラ＋音声でクラス状況を常時解析情緒変化
- ・危険兆候を即検知「今、誰に関わるべきか」を通知



※未来を予測する保育AI

- ・ 行動、感情、関係性データを蓄積
- ・ 今後のリスクを予測

孤立傾向

攻撃的傾向

観察AI

誰に関わるべきか

発達予測

未来のリスクを予測

保護者支援

説明の自動生成

保育士の負荷保護

バーンアウト防止

AIが「考える負担」を肩代わり

■ AIが“保育士のもう一つの脳”になる

NEURO-HOIKU



判断

予測

感情ケア

説明

この4つを、AIが支援する

年間300万円/施設の場合

大分県

約400施設
12億円/年

九州8県

約5,600施設
168億円/年

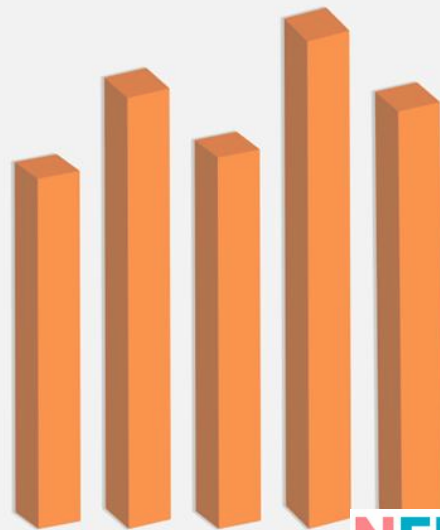
全国

約39,800施設
1,194億円/年

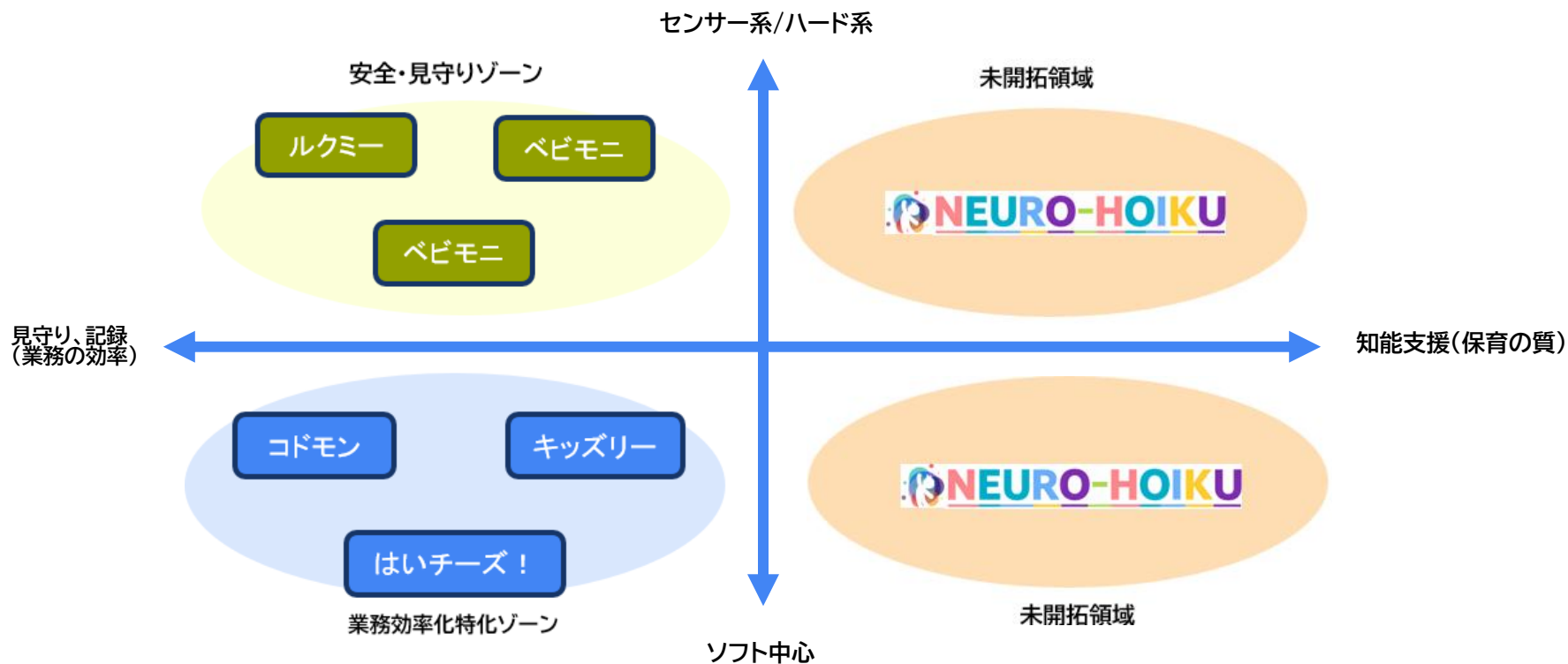
※療育施設も入れると更に増加

大分県から始まる年間1,000億円以上ものマーケット創出

年間契約型 AIインフラ



保育テック競合マップ



既存ICTは業務効率化が中心。見守り系は安全管理が主。

我々は「判断、予測、感情ケア、計画や説明」などを支える**知能インフラ**。

なぜ私たちが優位といえるのか？



現場とのつながり



信頼感

現場 → データ → 参入障壁

子育ての県、大分から
全国39800施設へ届ける

保育の質を、地域差ゼロへ



すべての保育士に「もう一つの脳を」





ご清聴ありがとうございました